

トラック輸送情報（平成23年12月分）

平成24年3月7日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

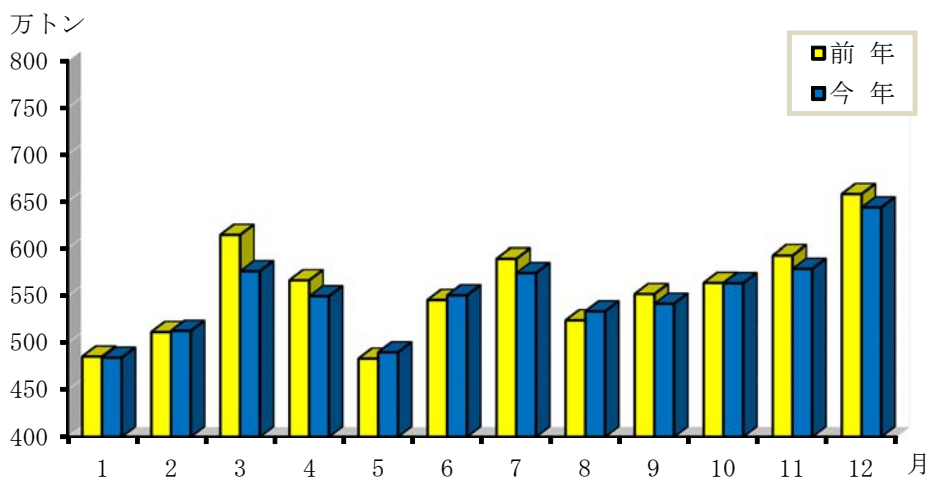
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

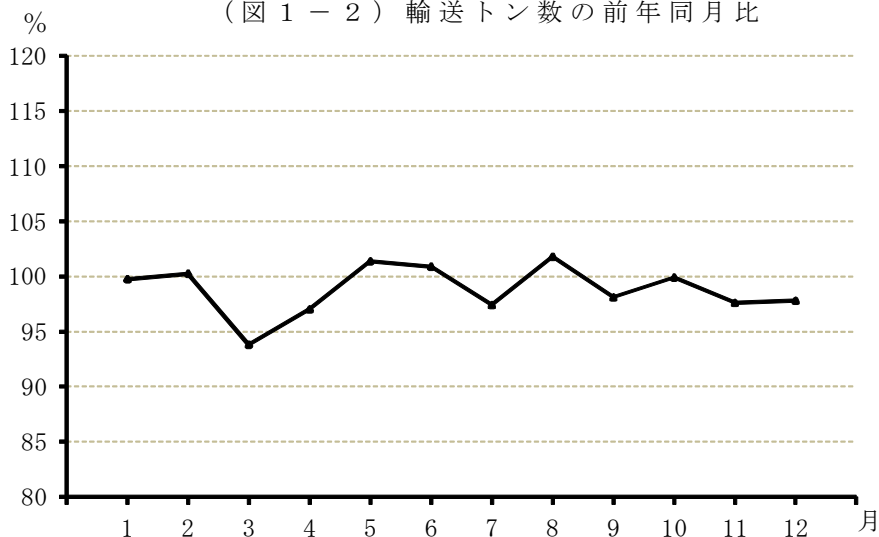
調査対象26社の本月の輸送量は、6,440,358トンで、前月と比べ総輸送量が約65万トン増加したため、前月比111.2%（季節調整済み99.7%）となり、前年同月との比較では、約14万トン減少したため、前年同月比97.8%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.0日で、前月と比べ0.4日減少し、前年同月との比較では、1.5日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、292,744トンで、前月と比べ約34千トン増加したため、前月比113.2%となり、前年同月との比較では、約13千トン増加したため、前年同月比104.5%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



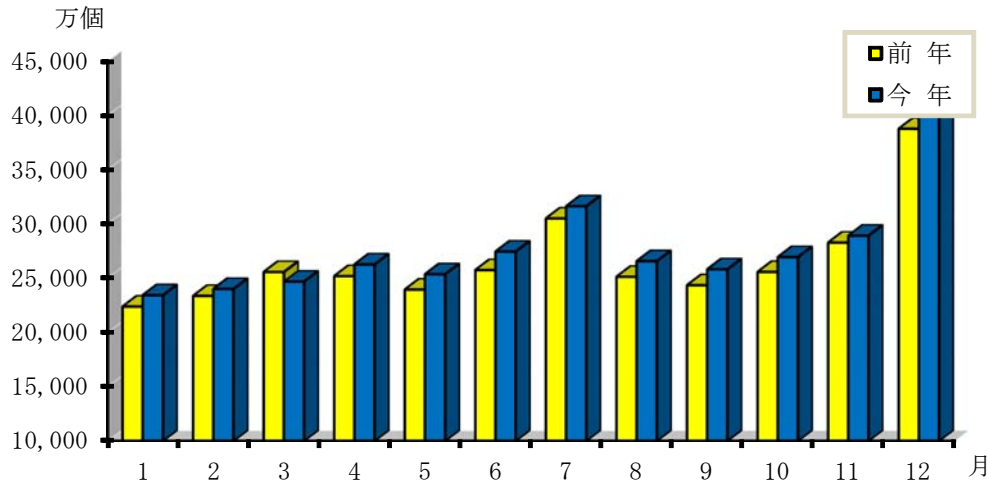
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



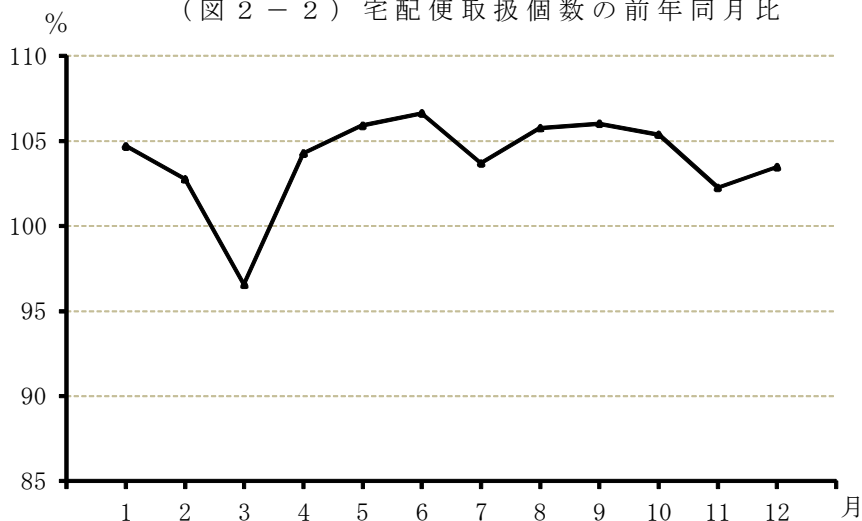
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、401,312 千個で、前月と比べ 約 11,202 万個増加したため、前月比 138.7%(季節調整済み 98.7%)となり、前年同月との比較では、約1,344 万個増加したため、前年同月比 103.5%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「食料工業品」で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増、倉庫から出る貨物増等であった。主な増加地域は関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国、福岡であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物減等が「農水産品」で、デパート、スーパーからの貨物減が「その他(百貨店配送品)」で見られたと回答する事業者があった。主な減少地域は、関東であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増 増	変 ら ず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		2	13	1	2			
							野菜、果物		
	金属製品				18	3			
								北陸信越	4
	機械		2	15	3				
	化学工業品		2	15	5			関東	
							合成樹脂		7
	繊維工業品		1	17	4				4
	食料工業品	2	6	10	2		製造食品	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国、福岡	4, 7
	日用品		4	15	3		衣服	関東	5, 8
									7
	その他	3	2	12	2	3	宅配便		8
								関東	5
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	3	1	野菜、果物	関東	4
								兵庫	
	金属製品		3	15	3				
	機械	1	3	12	4		機械部品		
							その他の機械	東北	7
	化学工業品	1	3	11	7			中国	
								東北	
	繊維工業品		3	14	4				4
	食料工業品		4	13	3			中国	
	日用品	1	3	13	4	1			4
							書籍・印刷物	関東	
	その他		5	9	4	4			
							その他(百貨店配送品)	関東	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 792 社／調査対象事業者数 1,049 社）の輸送量は、前月比 101.3%、前年同月比 102.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.4 %	110.3 %	101.4 %	97.9 %	102.7 %	97.6 %	97.3 %	98.3 %	97.9 %	103.0 %	99.0 %	
前 月 比	101.3 %	96.5 %	101.3 %	100.3 %	100.8 %	99.5 %	103.2 %	100.2 %	107.8 %	109.1 %	115.5 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比96.5%、対前年同月比110.3%であった。品目別では、天候の影響等により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「化学薬品」、「動植物性飼・肥料」が、工場・生産地からの貨物増等により「石炭」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、また、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比101.3%、対前年同月比101.4%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」、「水産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比100.3%、対前年同月比97.9%であった。品目別では、「揮発油」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比100.8%、対前年同月比102.7%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の石油製品」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比99.5%、対前年同月比97.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「機械」、「その他の農産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比103.2%、対前年同月比97.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「金属製品」が、荷主からの一時的な注文停止等の貨物減により「化学薬品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比100.2%、対前年同月比98.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、輸出入貨物減等により「鉄鋼」が、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」の輸送が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比107.8%、対前年同月比97.9%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、輸出入貨物の減少、不況の影響により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比109.1%、対前年同月比103.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増等により「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの需要減等により「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比115.5%、対前年同月比99.0%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「金属製品」が、商社・問屋からの需要増等により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物の減少により「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	1	2							3		6
	減		3		1			1				5
2. 野菜・果物	増	1	2					1	4	6		14
	減	6	5		1		1	1		2		16
3. その他の農産品	増					1		1	1		1	4
	減	6						2		1		9
4. 畜産品	増									2		2
	減		1		1			1		2		5
5. 水産品	増				1	1	1		1			4
	減	1	2									3
6. 木材	増	1	1							1		3
	減	1	1		1			1	1		1	6
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	3										3
	減											
9. 金属鉱物	増									1		1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	3						1		2		6
	減	8	1			1		5		1		16
11. 工業用非金属鉱物	増									1		1
	減	5	1						1			7
12. 鉄鋼	増		1	1			1			3		6
	減	2	1					3	1	2		9
13. 非鉄金属	増		1		1			1		1		4
	減							1				1
14. 金属製品	増					1	1	1	1	1	2	7
	減	1	1		1	1	3			3		10
15. 機械	増	1	3		2	2	1	2		1	1	13
	減		2	1	1	1	1	1				7
16. セメント	増		1					2		6		9
	減	2	1		1					1		5
17. その他の窯業品	増				2	1				3		6
	減	4	1		1		1	1				8

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増		1	2	1				1			5
	減											
19.その他の石油製品	増	4	5		6		1	1		1		18
	減							1	1			2
20.コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減											
21.化 学 薬 品	増	2							1			3
	減		1				2	1				4
22.化 学 肥 料	増	1			1							2
	減				1							1
23.その他の化学工業品	増		1					1		2		4
	減				2							2
24.紙 ・ パ ル プ	増	1						1	1	1		4
	減					1	1		1	1	1	5
25.織 維 工 業 品	増					1			1			2
	減				1							1
26.食 料 工 業 品	増	2	5	1	6	1	2	6		9	1	33
	減	1	1	1	1				2	2		8
27.日 用 品	増	1	1		1		2	1		3	2	11
	減	1	1	1						2		5
28.その他の製造工業品	増	1			3			1		2		7
	減	2	2	1	1			1		1		8
29.金 属 く ず	増									1	1	2
	減											
30.その他のくずもの	増						1			1	1	3
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	4	1							3		8
	減	2	1						1	1		5
32.廃 棄 物	増	7	2									9
	減	1										1
33.輸 送 用 容 器	増								1	1	1	3
	減							1		1		2
34.取 り 合 せ 品	増		2					2		1		5
	減		1					1	1			3
35.そ の 他	増	1	2		2		5	6	1	2		19
	減		2		1	1		3				7